

中間評価	
○ 成果と▽ 課題	● ▼ 期末への方策等
<p>【国語】</p> <p>○学びに向かう力等に関する意識調査では、国語の授業を「分かる」と答えている割合が8割を超えている。</p> <p>▽全国学力調査の結果より、3学年は知識及び技能で3ポイント低い。また、思考力・判断力・表現力に関しては2ポイント低い。</p>	<p>●授業の構造化を行い、生徒の見通しがもてるようにし、生徒が「今何に取り組むのか」がわかりやすい授業を、今後も継続していく。</p> <p>▼区学力調査では「聞くこと」に関してのポイント差はあまりないものの、その他の自らの考えを表出させるようなものに関しては、ポイント差が大きい。したがって、授業を講義型の一方通行のものではなく、生徒が自ら「問い」を見つけ、学びに向かい、自然とアウトプットできるような構造の授業を展開していく。</p>
<p>【数学】</p> <p>○学びに向かう力等に関する意識調査では、数学の授業を「分かる」と答えている割合が8割を超えている。</p> <p>▽区学力調査の結果より、3学年は教科全体で新宿区平均より6ポイント、全国平均より2ポイント低かった。一方応用に関しては全国平均より1ポイント高くなっている。</p>	<p>●基礎問題の取り組みは、生徒に寄り添い丁寧に指導ができていと考えられる。今後も継続して取り組むとともに、数学が「分かる」と実感できる生徒を増やしていく。</p> <p>▼応用問題への取り組みは、一定の効果が見られる。教え合い学習の機会を増やすとともに、デジタルドリルを活用しながら、理解度を高めていく。</p>
<p>【理科】</p> <p>○学びに向かう力等に関する意識調査では、理科の授業を「分かる」と答えている割合が8割を超えている。</p> <p>▽新宿区学力調査の結果より、3学年の平均正答率は区平均よりも6ポイント高く、全国平均より2ポイント高かった。一方また、応用に関しては2ポイント低くなっている。</p>	<p>●「授業が分かる」という生徒の割合に対し、「理科が得意」と考える生徒の割合が少し低いいため、生徒が得意だと思えるよう、達成感を得られる授業を展開する。</p> <p>▼応用問題への取り組みに課題が見受けられる。自ら学ぶ授業が実践できるよう、実験やICTを活用しながら、理解度を高めていく。</p>
<p>【社会】</p> <p>○学びに向かう力等に関する意識調査では、社会の授業を「分かる」と答えている割合が8割を超えている。また、その社会の学習を得意だと感じている生徒は7割に上っている。</p> <p>▽新宿区学力調査の結果より、3学年は教科全体で新宿区平均より5ポイント低く、特に日本の諸地域で11ポイント低かった。一方で、応用問題は全国平均点・新宿区平均点と同じであり、基礎より応用問題の得点力が高い。</p>	<p>●授業中の理解を大切にし、学習の苦手な生徒や学力の定着が不十分な生徒に対して、習熟度に応じた指導を行い、理解度を上げることができていると考えられる。また応用的な問題への取り組みを引き続き行っていく。</p> <p>▼デジタルドリルを活用し、基礎・基本の定着を促すことに重点を置く。また、既習事項を定期的に確認する時間を取り、課題として見られる分野の復習を促す。</p>

<p>【英語】</p> <p>○学びに向かう力等に関する意識調査では、英語の授業を「分かる」と答えている割合が6割を超えている。また、コースに分かれて数学や英語の授業を受けることで分かるようになるかの質問に、「そう思う」と答えている生徒が80%を超えている。</p> <p>▽新宿区学力調査の結果より、3学年は全国平均より高かったものの、全ての単元で区内の平均より低い。また、「書くこと」に関しては、区平均より-11.8ポイントであり、苦手とする生徒が特に多い。</p>	<p>●文法事項の説明は日本語で行うなど、場面に応じた英語と日本語の使い分けをし、基礎を着実に身につけていく。また、教員側が意図して英語力が偏らないようにペアを指定することで、継続して教え合いを促進していく。</p> <p>▼「書くこと」に関する指導をALTと協力しながらひとりひとりに行うことを継続し、書くことを得意とする生徒を増やしていきたい。</p>
--	--

期末評価

○ 成果と▽ 課題	● ▼ 期末への方策等
<p>【国語】</p> <p>○2学年の新宿区学力定着度調査において、前年度から理解している層の占める割合が5.5ポイント上昇した。</p> <p>▽1・2学年の新宿区学力調査において、全項目が区平均を下回っていた。1学年では「話すこと・聞くこと」の習熟に、2学年では「知識・技能」の定着に課題が見られた。</p>	<p>●2学年においては、引き続き理解に課題のある層の底上げを目指し、漢字や語彙などの基礎の習得に加えて、読解力や表現力を高める取り組みを続けていく。</p> <p>▼1学年においては、意見発表や討論など生徒間で意見を発信・交流する活動に力を入れ、2学年においては、問題集やデジタルドリルを活用し、漢字や語彙の定着を目指していく。</p>
<p>【数学】</p> <p>○新宿区学力定着度調査の結果では、1学年は基礎項目が区平均と同じ数値になっている。また、理解している層が他教科に比べて多い数値となっている。</p> <p>▽新宿区学力定着度調査の結果では、2学年は全項目において区の平均を下回っていた。特に関数のポイントが区平均より6ポイント低く、知識の定着に課題が見られた。</p>	<p>●1学年では基礎内容の徹底が行えているため、継続して取り組んでいく。また、2学年ではよく理解している層が増え、理解に課題のある層が減ったため、底上げの成果が出ている。引き続き底上げを図っていく。</p> <p>▼1学年、2学年ともに、関数の項目のポイントが低いいため、デジタルドリルやデジタル教科書でグラフを視覚化するなどし、反復練習を促し、基礎の定着を行っていく。</p>
<p>【理科】</p> <p>○新宿区学力定着度調査の結果では、2学年は全項目において区の平均を上回っていた。また、理解に課題のある層の生徒が昨年比5ポイント減少した。</p> <p>▽新宿区学力定着度調査の結果では、1学年は全項目において区の平均を下回っていた。特に知識・技能のポイントが区平均よりも5ポイント低く、知識の定着に課題が見られた。</p>	<p>●2学年では今までの取り組みに成果が出ており、基礎基本の徹底が行えているため、基礎的な知識をふまえた思考力がついてきていると考えられる。このまま取り組みを継続していく。</p> <p>▼1学年は基礎の定着が行えておらず、理解に課題のある層の生徒が多く見られる。デジタルドリルを活用した基礎学習を推進し、繰り返し学習を促す中で基礎の定着を促していく。</p>

<p>【社会】</p> <p>○新宿区学力定着度調査の結果では、1学年は基礎的な問題が新宿区の平均を5教科の中で唯一下回らなかった。2学年は、新宿区の平均と比較して、基礎的な問題よりも応用問題の方が2.6ポイント高い。</p> <p>▽新宿区学力定着度調査の結果では、1学年は応用問題が新宿区の平均と比較して1.3ポイント低かった。2学年は、基礎的な問題が3.3ポイント低く、理解している層が減少し理解に課題のある層が増加した。</p>	<p>●1学年は、応用問題への取り組みを進め、2学年は、既習事項の定着を徹底していく必要がある。また、各学年とも理解している層の増加を目指し、理解に課題のある層の減少を目指していく。</p> <p>▼1学年は、資料の読み取りや既習事項の活用を授業内外で取り入れていく。2学年は、定期的にデジタルドリルや授業中の課題に復習を取り入れ、知識の定着を促す。各学年とも、授業内での理解を重要視し、ワーク演習や課題が生徒の理解と能力の向上を促す形式で活用していく。</p>
<p>【英語】</p> <p>○授業においてALTを積極的に活用し、Writing指導を行なった結果、新宿区学力定着度調査の結果（2学年）において「書くこと」の達成率が区平均よりも1.1ポイント高かった。</p> <p>▽新宿区学力定着度調査の結果において、1・2学年ともに「聞くこと」の達成率が区平均よりも低い。（1学年-3.5ポイント、2学年-5.9ポイント）</p>	<p>●「書くこと」に関して、毎回の授業で継続的に英文を書く活動を行い、ALTを積極的に活用して添削を受けることで、英文記述の定着が図られている。今後もこの取り組みを継続していく。</p> <p>▼「聞くこと」に関して、英語を英語で説明する場面を増やし、集中して英語を聞き取り理解できる力を育成する。また、音の連結や脱落といった音声変化を意識させながら、リスニング力の向上を図っていく。</p>